

# 会報 71

北陸電波学校  
北陸電波専門学校  
北陸電波高等学校  
金沢工業大学附属高等学校  
金沢工業高等専門学校  
国際高等専門学校  
金沢工業大学

VOL.  
**71**  
2023.1

## 扇が丘キャンパス編Part1 誌上キャンパスツアー

サマーセッションin白山麓2022

### 白山麓で初めて開催

令和4(2022)年度こぶし会全国支部代表者会議

### 対面イベントを一日も早く



扇が丘  
キャンパス編  
Part I

# 誌上キャンパスツアー

昭和57（1982）年に開館したライブラリーセンター。今年でちょうど開館40年を迎えました。ライブラリーセンターにスポットを当てながら、キャンパスを巡ってみましょう。次号では、扇が丘キャンパス編PartIIをお送りします。

北校地に1号館（益谷記念館）が完成して以降、扇が丘キャンパスの時計の針が大きく動き出しました。時代とともに変わっていく場所、変わらない場所。世代を超えて重なる「あの場所」「あの思い出」がキャンパスにはあります。

今では、キャンパスの姿形は全く異なっています。残念がる人もいるでしょうし、母校の発展を喜ぶ人もいるでしょう。今と昔が混在するキャンパスであることは、それだけ歴史を刻んできた証拠だと言えます。



## チェック! あの場所は今

10・11号館は元々、金沢高専の建物の一部で、建物に囲われた50m公認プールがありました。平成27（2015）年に壊され、現在は駐車場になっています。



扇が丘キャンパスの北校地と南校地を結ぶ地下道は、今でも通ることができます。金沢高専の学生の出入り口は旧校舎では2階にありました。草創期からさまざまな行事を見守ってきた円形の体育館。現在は隣に第2体育館があります。

01

# ライブラリーセンター 世界が注目した図書館



ライブラリーセンターHP

既存の図書館と一線を画したライブラリーセンターは、日本のみならず世界から注目を集めました。特徴的なのは分類方法で、分野別にフロアが分かれており、高さは図書館としては異例の12階です。また、ロックやジャズなどさまざまなジャンルのレコードを気軽に聞くことができる「ポピュラー・ミュージック・コレクション(PMC)」があるなど、その先進性は今も色あせません。



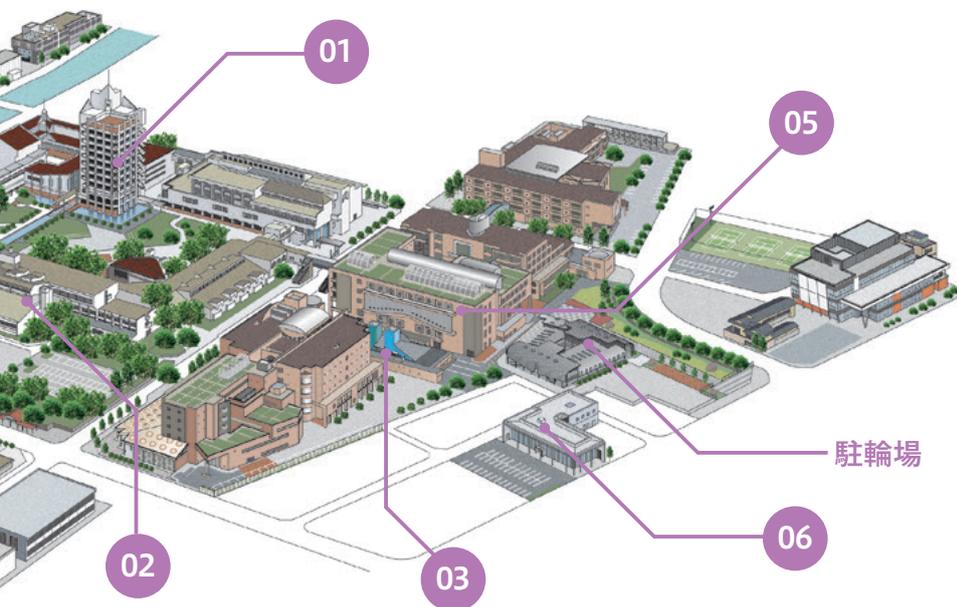
屋上のアンテナ



ポピュラー・ミュージック・コレクション



女性専用閲覧室



## 工学の曙文庫 科学的発見などの初版本を収集

「工学の曙文庫」は、ライブラリーセンターに設置された、科学的発見や技術的発明が最初に発表された初版本を中心に収集した希少なコレクションで、約2000点を所蔵しています。このコレクションは一般公開されていませんが、「原著から本質を学ぶ科学技術講座」のウェブサイトから、その一端に触れることができます。



## ◆ 館長インタビュー

Interview



館長・副学長 **鹿田 正昭さん**  
(大学・土木・昭和51年卒)  
(大学院・土木工学専攻・昭和58年修了)

### ライブラリーセンター (LC) 誕生秘話

## 大学らしい大学になる

創設者・泉屋利吉翁の口癖は「大学らしい、大学になりたい」と聞いています。大学は、志高き人々が集まり、互いに必要な知識や技能を与え合い、共同で共創による知恵と多様な価値を生み出す場です。特に、学術の殿堂として建設されたのがライブラリーセンターで、学園のシンボリックなタワーとなっています。同時に、我が国最初のカードレスライブラリーを実現し、蔵書・資料のデータベース化とセルフサーキュレーションシステムの構築と運用、さらに本学独自のサブジェクト・ライブラリアン制度で教育、研究、卒業生を支援しています。この先進的なライブラリーセンターには、国立国会図書館副館長を務められた初代LC館長・酒井悌<sup>やすし</sup>先生の知識と経験、情熱が惜しみなく注がれています。

常務理事 法人本部長 **村井 好博さん**  
(大学・経営・昭和56年卒)

## 教育支援で中心的役割

図書館は知の拠点であり、教育支援の施設として独立性を持っています。学生、教員、地域の全ての人が自由に使うことができる“開かれた図書館”と言えるでしょう。今後は電子書籍が増えていくと思われます。情報をすばやく発信できる利点があり、パソコンの中に図書館がある時代が到来しました。そういった意味では、40年前から情報の電子化に取り組んできたのは先見の明があったと言えます。本があるから知の拠点なのではなく、人間も知の一部としてライブラリーセンターを形作っていくと考えています。

ご存じですか？  
卒業生はライブラリーセンターが使えます。  
利用方法はこぶし会ウェブサイトまで。



利用方法

02

## 1号館 学園の始まりの建築物

昭和44(1969)年に竣工した1号館。設計者は大谷幸夫氏で、代表作に金沢工業大学北校地のほか、国立京都国際会館や沖縄コンベンションセンターなどがあります。

昭和57(1982)年、金沢工業大学扇が丘キャンパス北校地全体が日本建築学会作品賞を受賞しています。また、独創的な空間造形が高く評価されており、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築226選」に選ばれました。



1号館関連記事



人と人が自然に交わるように大きな広場を作り出しています

2階にある修学相談室と教務課。修学相談室は修学と学生生活全般、奨学金、学割、各種証明書発行、教務課は履修申請、授業、成績、教育支援、教育補助などについて相談することができます。



03

## チャレンジラボ (26号館) 新たな価値を創造



VRを用いたチェアスキーシミュレータの開発と評価



チャレンジラボは、その先にある未来を自らの手で生み出そうと開設された研究の場です

未来の新技术や新たな価値を創造する拠点として平成29(2017)年に誕生したのが「Challenge Lab」です。元々、夢考房26があった場所で、2本の角のような屋根は健在です。学科や研究室の枠を超えて学生が研究に取り組む「クラスター研究室」、AI技術分野における教育研究を行う「AIラボ」などがあります。

### ■ クラスター研究室の主なテーマ

「ARによるクリーンセンター設備学習教材の開発」 下川研究室 (建築学科)

「ウォータージェットを用いた洗浄技術に関する基礎研究」 杉本研究室 (機械工学科)

「人工知能の画像認識技術を用いた椅子修理費用の自動見積もりシステム」 武市研究室 (経営情報学科)

「新しいロボット技術を創造し暮らしと産業界に変革を (Smart Robotics)」 鈴木研究室 (ロボティクス学科)



チャレンジラボ関連記事



国際交流会館関連記事

04

## 国際交流会館 (47号館) 50人の留学生が滞在可能

鉄骨3階建ての国際交流会館は、1階に畳敷きの会議ブースや談話ブースがあります。2階、3階は留学生の住居エリアで、個室5部屋と共有スペースで構成されたユニットが10ユニットあり、最大50人の留学生が滞在できます。共有スペースには、ミニキッチンが備わったりリビングとトイレ、シャワールームがあり、プライベートとコミュニケーション

が両立できます。また、それぞれの個室とユニットリビングにはテラスがあり、高橋川が眺められます。

リラックスしながらグループ学習、セミナーなどを行う空間



食もコミュニケーションの一つ

05

## 23号館 学生の学習を支援



23号館

チームラーニングと学習支援の拠点です。1階フロアには、「イノベーション&デザインスタジオ」として、インタラクティブホワイトボードを使ったチーム学修が可能なブースが46あるほか、双方向のプレゼンテーションを行う発表ブースなどもあります。



発表ブースではプレゼンテーションのスキルを磨きます

06

## 28号館 こぶし会活動の拠点

こぶし会事務局が入居した28号館は、平成27(2015)年に新築されました。こぶし会活動の拠点として機能しており、セメント板とガラスカーテンウォールに覆われた外観は、先進性にあふれています。卒業生の方はぜひ気軽にお立ち寄りください。



駐輪場からすぐの場所にあり

### 歴史ある施設を守っていく ——



施設部長 **田畑 浩数**さん  
(高専・電気・昭和59年卒)  
(大学院：ビジネスアーキテクト専攻・平成30年修了)

学園がキャンパス内に空間を作ると、学生がうまく活用してくれるので、当初の考えよりも素晴らしい空間に仕上がってくれます。学園の施設利用率は90%に達しており、それだけ学生が学習している証左と言えます。このキャンパスには、学生がよい環境で勉強してほしいという発想が息づいており、設計者の意図を壊すことなく学生が使いやすいように改修しています。開学当初から残る施設は、時代にマッチさせながら歴史を守っていきたいと考えています。

ホームcomingデーではキャンパスツアーを行います。  
こぶし会事務局にお問い合わせください。

## 高専同窓会 金沢工業高等専門学校、国際高等専門学校

### 金沢の歴史文化資産に触れる

#### 「カナザワケンチクサンポ」を活用

第16回金沢歴史探訪は9月3日、金沢市の金沢歌劇座周辺で開かれ、会員ら10人が歴史的な文化遺産を大切にしたい金沢のまちづくりについて知識を深めました。

最初に野中正樹会長（昭和50年卒）があいさつ。金沢市歴史都市推進課の

小柳健さんが歴史を生かした金沢のまちづくりを解説し、「金沢城を中心に徒歩2km圏内に歴史文化資産の建築物が分布しています。金沢は建築物だけでなく、工芸技術、伝統文化、都市構造が積層した重厚な歴史都市です」との説明がありました。



出場メンバーを激励する西谷副会長（左）



金沢の古き良きまち並みを守ることが大切だと認識した参加者の皆さん

高専同窓会の西谷隆司副会長（昭和53年卒）は11月12日、国際高専金沢キャンパスを訪れ、「高専ロボコン2022」の全国大会に出場するメンバーを激励しました。西谷副会長が「自分たちの実力を出し切り、優勝目指して頑張ってきてください。」とエールを送りました。

（→詳しくはP16へ）

## 機扇会 機械工学科・機械システム工学科・物質応用工学科・先端材料工学科・物質システム工学科・ロボティクス学科・航空システム工学科

### オンラインと対面で開催

#### 令和4（2022）年度総会および交流会

工大祭に併せた機扇会の総会と交流会は10月15日、金沢工業大学7号館でオンラインと対面のハイフレックス形式で開催され、会員15人が参加しました。

総会では、中田政之会長（昭和61年卒）があいさつし、機扇会の会員の現状、コロナ禍における機扇会活動と大学の現状について紹介したほか、今後の機扇会活動に協力をお願いなどがありました。

その後、議事の進行に入り、機扇会会則の紹介および役員を選出、令和3（2021）年度事業、収支決算の報告および令和4（2022）年度事業計画（案）などの審議が行われ、いずれも承認されました。続いて事業報告など

の審議が行われ、承認されました。

また、交流会では、やつかほりサーチキャンパスの研究室と工大祭の様子がりモートで紹介されました。

研究紹介は、機械工学科やロボティクス学科、建築学科や環境土木工学科など分野を超えた研究室が参加しているコンクリート3Dプリンターに関する研究プロジェクト紹介が行われました。

工大祭は3年ぶりに通常開催となり、にぎわいを取り戻していました。残念ながらこぶし祭やホームカミングデーは中止となりましたが、来年はぜひ大学へ足を運んでいただき、同時開催予定の機扇会交流会にもご参加ください。



ハイフレックス形式で開催した総会と交流

なお、本年度2回目の交流会として3月18日、佐藤恵一先生の講演会を予定しております（オンラインでも配信予定）。詳細はこぶし会ホームページで案内予定です。

会場となった7・201教室は本年度、オンライン上の学生が、対面の学生と同じ環境で授業を受けられるようにすることを想定し、複数のカメラやモニタが配置されハイフレックス型授業に対応できるようにチューニングされました。

## 同窓のつどいが延期

### 「保二会のあゆみ」の発行に協力を

3年ごとに開催している「同窓のつどい」は令和4(2022)年9月3日に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症のため延期となりました。今後の開催につきましては、改めてこぶし会ウェブサイトなどでご案内いたします。

また、この度、「保二会のあゆみ」を発刊することが決まりました。卒業生の皆さまには、学生時代の思い出、エピソード、クラブでの出来事などの寄稿や写真などの資料も募集しております。



開催延期が決まった「同窓のつどい」(写真は前回のもの)

## 新会長に吉井源治さん(平成5年卒)

### 令和4(2022)年度総会

琥睦会総会は9月17日、金沢市のホテル金沢で開催し、会員や先生方など約20人が参加しました。

総会では、令和3(2021)年度事業と会計報告、令和4(2022)年度事業計画と予算案を報告しました。役員人事では、吉井さんを新会長に選び、新幹事を紹介しました。吉井新会長は「同窓会の活性化のため、微力ながら

尽力したい」と抱負を述べました。

また、電気電子工学科主任の野口啓介教授(平成2年卒)が、電気電子系の近況について報告しました。コロナ禍ということもあり、記念講演会や懇親会は開催しませんでした。久しぶりの対面での総会ということで、会員一同、近況報告や思い出話などに花が咲きました。



総会に出席した皆さん

## オンラインで活動報告

### 扇翔会総会

扇翔会の総会は10月15日、オンラインで開催しました。

はじめに加原智彦会長(平成7年卒)から扇翔会の活動についての案内があり、続いて小松義明副会長(平成22年卒)が平成30(2018)年度から令和3(2021)年度までの4年間の決算報告、磯部琢磨さん(平成20年卒)が監査報告を行いまし

た。さらに、加原会長から4年間の事業実績および今年度の事業計画とその進捗についての説明が行われました。

その後、役員改選の決議があり、磯部さんに加えて酒本明広さん(平成22年卒)が新監査役として承認されました。

最後に役員紹介が行われ、新幹事



オンラインでの総会の様子

の永山翔さん(平成30年卒)があいさつし、閉会となりました。

## 経工会

経営工学科・経営情報工学科・情報マネジメント学科・  
情報経営学科・経営情報学科

### 明治以降に大名が誕生?!

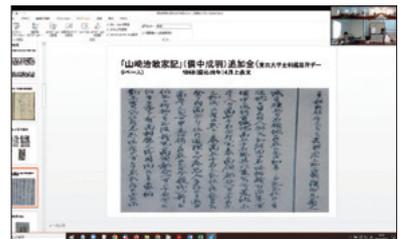
#### 第39回夏の異業種交流会

第39回夏の異業種交流会は令和4(2022)年8月27日、オンラインと対面の併用形式で10人が参加して開催され、幹事の里見和彦さん(昭和57年卒)が「明治初年に成立した大名-明治初年に誕生した大名家-」と題して講演しました。

里見さんはまず、「江戸時代から明治時代が変わる時代の節目に紛れて、駆け込みで大名となった藩が16藩もあった」としました。特に徳川御三家の家老は独立志向が高く5家が立藩

したそうです。

新政府に立藩を許された理由としては、①新政府に忠勤が認められた②石高が1万石以上③外様④新政府との交渉が巧みだったとされます。里見さんは「立藩した大名は、廃藩置県になるとは思っていなかったのだろう。江戸時代が終わるとは思っておらず、誤算だったのだと思う」と考察しました。激動の時代の藩の経営について、知られざる歴史があることに出席者全員、驚きを隠せないようでした。



併用形式で開催した異業種交流会

#### [第40回冬の異業種交流会]

- 日時 令和5(2023)年1月21日(土) 10:00~12:00
- 講師 情報フロンティア学部経営情報学科 狩野剛教授
- 場所 オンライン
- 演題 未定
- 会費 無料
- 申し込み 経工会及びこぶし会ウェブサイト参加フォームからお申し込み下さい。

## ながつき会

土木工学科・環境土木工学科

### 総会は中止に

こぶし会ウェブサイトでもお伝えした通り、総会につきましては会員の皆さんの健康と安全に留意して、中止とさせていただきます。

### 猛暑の中でゴルフ大会

令和4(2022)年度ながつき会ゴルフ大会は9月10日、石川県小松市のゴルフクラブツインフィールズダイヤモンドコースで開催され、例年よりも少ない13人の参加者だったものの、猛暑の中で熱戦を繰り広げ、盛り上がりを見せました。

ながつき会では、令和5(2023)年度もゴルフ大会を開催する予定ですので、奮ってご参加お待ちしております。開催のご案内は、こぶし会ウェブサイトなどで行います。

## 平結会

人間情報工学科・環境システム工学科・  
バイオ化学科・環境化学科・生命情報学科・  
心理情報学科・応用バイオ学科・応用化学科

### 神宮英夫教授が最終講義

#### 卒業生交流会・記念パーティも開催

心理情報学科・心理科学科、大学院システム設計工学専攻を長年担当されてきた神宮英夫教授が、令和5(2023)年3月をもって心理科学科から今後は感動デザイン工学研究所顧問としてご活躍の予定です。つきましては、神宮先生の最終講義、卒業生・修了生による交流会と神宮先生を囲んでの記念パーティを開催いたします。

- 日時・場所 令和5(2023)年3月11日(土)  
[最終講義・卒業生交流会] 13:30~  
金沢工業大学扇が丘キャンパス8号館308教室  
(オンラインでも配信予定)  
[記念パーティ] 18:30~  
ANAクラウンプラザホテル金沢
- 会費 [最終講義・卒業生交流会参加費]  
無料  
[ANAクラウンプラザホテル金沢  
記念パーティ参加費]  
1万3,000円(50人定員)





# サマーセッション in 白山麓 2022

## 白山麓で初めて開催 穴水湾自然学苑の イベント継承



ノルディックウォークで林の中を行軍しました

サマーセッションin白山麓2022は令和4(2022)年8月20日、21日、白山市尾添の一里野高原周辺で行われ、参加者は緑豊かな自然に囲まれながら、心身ともにリフレッシュしました。

穴水湾自然学苑が閉鎖されたため、恒例の夏のイベントがなくなるのは寂しいという声を受け、白山麓で初めて1泊2日の日程で開かれました。

当日はあいにくの雨天だったものの、一里野の北竜会館内でスイカ割りが行われ、周囲の人たちからは「左、右、左、そこ!」と歓声が上がりました。続いてノルディックウォークの練習をした後、雨にも関わらず、自然の中を滑走しました。

翌日は白山麓キャンパスを見学し、最新の施設に関心を寄せていました。おみやげにウインドチャイムの工作キットをもらった渋谷忠孝さん(大学・電気・平成8年卒)は「雨の中を歩いたノルディックウ

オークは思い出になった。ぜひ来年も参加したい」と話しました。



スイカ割りに挑戦する参加者



ゴールに到着し、全員で「ヤッホー」と叫びました



渋谷さんは自宅に戻ってからウインドチャイムを製作したそうです

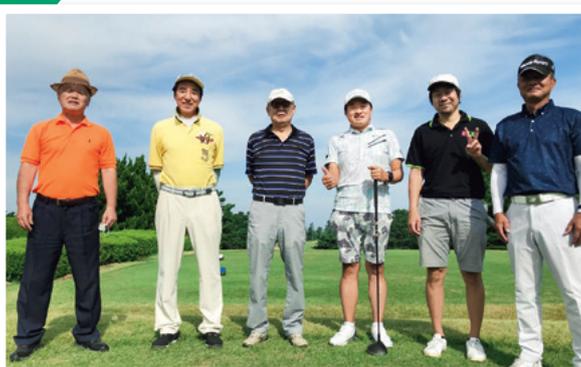
## 令和4(2022)年度こぶし会ゴルフ大会 本村与茂さんが優勝

(高専・機械・昭和57年卒)

第24回こぶし会ゴルフ大会は9月17日、石川県加賀市の片山津ゴルフ倶楽部日本海コースで開かれ、会員と学園関係者約40人が参加し、3年ぶりに開催されたゴルフ大会で親睦を深めました。

ダブルペリア方式で行われたラウンドでは、青空が広がる絶好のゴルフ日和となりました。ナ

イスショットを放つ参加者がいる一方、ミスショットでがっくりと肩を落とす参加者もいるなど、悲喜こもごものプレーに笑顔がこぼれました。個人の部で本村さんが優勝(ネット71.6)を飾りました。なお、グロスの1位は81の堀賢治さん(大学・土木・昭和62年卒)でした。



優勝を果たした本村さん(右から1人目)



## 令和4(2022)年度こぶし会全国支部代表者会議



# 対面イベントを一日も早く オンライン併用で支部総会開催も

こぶし会全国支部代表者会議が10月15日、オンラインで開催され、こぶし会の役員や全国の支部代表者ら約90人が出席しました。オンラインと対面を組み合わせた併用形式で支部総会の開催を検討していくことを確認しました。

オンライン会議では、松田真一会長(大学・情報・昭和50年卒)が「コロナ禍も落ち着きを見せ、高専ではホームカミングデーを実施しましたが、こぶし祭が開催できなかったのは残念に思っています。ただ、白山麓で初めてサマーセッションを開催し、将来に向けた一步を踏み出せたと考えています。支部総会については、オンラインが導入されたことで、遠方の人たちも参加しやすくなりました。併用形式という考え方も重要です。学園と連携しながら来年はこぶし祭の開催を検討します」と挨拶しました。

この後、支部委員長の中橋勝美さん(保二会・附属高・昭和41年卒)を議長に選び、令和3(2021)年度事業報告と令和4(2022)年度事業計画が報告されました。前年度からの理事会の付議事項の報告では、支部活動の助成について、支援する費用が示され、特例措置として新型コロナウイルス感染症でキャンセルが発生した際

のキャンセル料を認めることとしました。

石川支部の立ち上げについては、支部長候補として米森信夫さん(高専・機械・昭和45年卒)が紹介され、令和4(2022)年度内に総会を開くことで調整が進んでいることが報告されました。

また、茨城支部が支部総会を対面とオンラインの併用形式で実施した事例を紹介し、参加者からは「併用形式にすることで自宅からの参加が可能となる」などの意見が聞かれました。SDGs推進センター所長の平本督太郎准教授の学習指導要領「持続可能な開発のための教育(ESD教育)」とSDGs実現に向けてと題した講演ビデオや、こぶし会事務局がまとめた学園の現況の資料も好評だったそうです。

このほか、富山支部からは、「支部総会を充実させるために、教員の方が講演できる内容をリスト化できないか」「最新の学園のPRビデオを各支部に配布できないか」などの意見がありました。



「皆さんとお会いする日を待ち望んでいます」と語る松田会長



議案について説明する役員

### 全国支部 代表者会議とは？

こぶし会は78,000人を超える会員が所属する同窓会組織です。全国支部代表者会議は、47都道府県で活動する支部の代表者らが集まる会議です。各支部の特徴的な活動を紹介したり、お互いに意見交換したりすることで、支部活動の活性化につながっています。また、こぶし会全体の運営についても議論する場となっています。

## 令和 4 (2022) 年度地区支部長会議

### オンラインも活用して 支部総会の開催を

令和 4 (2022) 年度地区支部長会議は、オンラインによって開催されました。全国 7 地区の支部長会議で議論した内容は、全国支部代表者会議で議論されることとなります。会議では、コロナ禍で活動が休止した中、各支部がそれぞれどのように対応していくべきかを協議しました。

### 関東地区

#### オンラインで若い会員の参加も

関東地区は9月17日、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨の8支部と学園関係者7人が参加し、これからの地区のあり方について話し合いました。会議では、埼玉支部が「地理的に他県の卒業生との交流がしやすく、関東全域に交流を広げたい」としたほか、茨城支部は「オンラインと対面の併用形式では、若い会員、遠方の会員の参加があった」と報告しました。

### 東海地区

#### 東海地区でセミナーを

東海地区では、4支部（岐阜、静岡、愛知、三重）の代表者と学園関係者3人が参加し、7月9日に開催しました。各支部からは、静岡支部が「役員はSNSでつながっている」、三重支部は「支部単位でのキーマンの発掘が重要」、愛知支部からは「東海地区でセミナーを開催できないか検討している」などの報告がありました。最後に、SNSでの情報発信を強化すべきとの意見で一致しました。

### 中国・四国地区

#### SNS で活動を活発に

中国・四国地区は、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛の8支部の代表者と学園関係者10人が参加して8月27日に開催しました。報告では、支部活動を活発にするために、SNSが有効であるとの意見が相次ぎました。また、ゴルフや釣り、バーベキューなど気軽な企画への参加を呼び掛けることで支部の輪を広げたいという声もありました。

### 東北・北海道地区

#### 教員の講演依頼の検討を

東北・北海道地区は10月8日、8支部（道東、札幌、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）と学園関係者8人が参加して開催しました。各支部からは「3年ぶりに支部総会を実施した」「来年は泊まりがけの支部総会の開催を検討している」「こぶし会の事業として教員の方々の講演依頼ができるか検討してほしい」などの活動報告や意見がありました。

### 北信越地区

#### 若者対象のイベントを

北信越地区は、新潟、富山、高岡、福井の4支部と学園関係者9人が参加して9月24日に開催しました。富山支部からは「オンラインで活動できる工夫・アイデアを考えていきたい」、高岡支部は「対面の活動としてゴルフコンペから始めたい」とし、若者が集えるイベントを考えてほしいとの要望がありました。また、北信越地区でイベントの企画をという意見も聞かれました。

### 近畿地区

#### ゴルフミーティングを開催

近畿地区には、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の6支部と学園関係者7人が参加して7月2日に開かれました。各支部からは「ゴルフミーティングを開催している」、「メールで状況報告を行った」「活動は全くできていない」「来年は支部総会を対面で開催したいと考えている」といった声が聞かれ、コロナ禍での活動に苦労している様子がうかがえました。

### 九州・沖縄地区

#### 趣味のイベントで参加者増を

九州・沖縄地区は、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の7支部の代表者と学園関係者7人が参加して9月3日に開催しました。現状の会員数を維持しながら、支部総会の参加者をいかに増やしていくかが論点となり、「趣味のイベントを開催してはどうか」、「定年退職をした方に声をかけていきたい」などの意見が出されました。

## 支部長からの便り

卒業生の皆さん、徐々に日常が戻っていますか。しばらく顔を合わせてない支部の会員に向けて各支部長からのメッセージを送ります。

### 滋賀支部 高橋 賢司 (大学・建築・平成元年卒)

昨年の活動は、ほとんどできませんでした。いろんな会合で会員の方に会う機会があると、いつ総会を開いてくれるかといった声も聞かれました。オンラインと対面の併用形式のイベントを開催してもいいのかなと思っています。来年は「必ず支部総会をやる」という意気込みで頑張りたいです。

### 京都支部 勝山 茂樹 (大学・電気・昭和63年卒)

3年ぶりに支部総会を開催し、15人が参加してくれたほか、ゴルフミーティングを2回行いました。また、参加者のすそ野を広げたいと思い、全国一斉ボウリング大会は昨年初めて福知山で実施しました。気軽に参加できる支部を目指しております。フェイスブックを立ち上げましたので、ぜひご覧ください。

### 大阪支部 岸本 亮輔 (大学・土木・昭和52年卒)

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年は全く活動ができない状況でしたが、大阪支部のフェイスブックで情報発信はしていました。コロナ以降、いろんな価値観が変わりました。同窓会が人生の何かのきっかけになればと思います。今年こそは、支部総会や全国一斉ボウリング大会を開催したいですね。

### 兵庫支部 黒瀬 将一 (大学・機械システム・平成2年卒)

オンラインでの意見交換会など、新しいつながりの場を模索していきたいと考えていますが、対面でのコミュニケーションが重要ですので、支部総会をぜひ開催したいです。情報発信がスムーズにできるよう、メールアドレスを教えてください。メールなどで支部総会の運営などのご意見を気軽にいただけると幸いです。

### 奈良支部 阪口 龍平 (大学・建築・昭和53年卒)

昨年については、新型コロナウイルス感染症が収まらず、イベントができない状況が続きました。コロナが収まった時に備え、役員間でのメールのやり取りは欠かしていませんでした。一日でも早くこの状況を脱し、県内での1泊2日の支部総会を開催しようと考えていますので、その際にはぜひ参加してください。

### 和歌山支部 谷垣 和伸 (大学・土木・昭和56年卒)

何もできない現状を考えると、オンラインと対面の併用形式の支部総会を開催してもいいのではないかと考えています。同窓会活動も時代に即して変える必要があるでしょう。若い同窓生に参加してもらい、支部活動をつないでいきたいですね。学園に協力してもらってオンラインでの教員の講演もお願いしたいと考えています。

## 就任あいさつ

### こぶし会支部委員会 新委員長

中橋 勝美氏 (保二会・附属高・昭和41年卒)

この度、こぶし会支部委員長という大役を拝命いたしました。金沢工大学園同窓会こぶし会の発展のため、私自身、何ができるのか考えたいと思います。会員の皆さんが支部活動へ参加することで会員の交流と人脈づくりが進んでいます。生き方や考え方の違う会員同士の交流は、オンラインという新しいコミュニケーションの機会も加わり、人としての成長を促すでしょう。今後、会員の皆さんの意見が実現できる環境を整えることができるよう頑張ってまいります。



## 新支部長紹介

### 福岡支部長

秋山 守吉氏  
(大学・機械・昭和52年卒)



### 山梨支部長

佐藤 信二氏  
(大学・土木・昭和60年卒)





ダニーデン国際空港で記念撮影する学生たち

# 国際高専 3年生10人が留学 3年ぶりにニュージーランドへ

国際高専3年生の学生10人は令和4(2022)年8月24日、ニュージーランド・ダニーデン市にある国立オタゴポリテクニクでの留学生生活を始めました。

ニュージーランド政府は令和2(2020)年3月、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外国人の入国を制限したことから、国際高専の留学プログラムが2年間、実施できず、国立オタゴポリテクニクの授業をオンラインで受講しました。

今回、ニュージーランド政府が留

学生5,000人の早期入国許可枠を設け、国際高専がその枠に入ったため、ニュージーランド留学が可能になりました。

留学の期間は、令和5(2023)年3月14日までの約7カ月間と短縮したものの、何より待ちに待った留学が再開したことを学生は喜んでます。

オタゴポリテクニクはニュージーランドの南島南東部の美しい街並みで知られるダニーデン市にキャンパスを有し、学生10人はホームステイをしなが

らITやエンジニアリングの専門科目を学びます。



日本からの留学生が戻ってきたことを伝える現地の新聞

## 会報こぶしとこぶし会ウェブサイトで2問を出題

# クイズの学園 VOL 22

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトが連動して、クイズを出題します。応募するにはそれぞれの答えが必要ですので、注意してください。

第1問 会報こぶし(71号)からの出題



ライブラリーセンター開館●●年

誌面の中から当てはまる言葉を探してください。

第2問は **こぶし会** ウェブサイト で出題 →



### ■ 応募方法

同封しているインフォメーションカードに、会報こぶしとこぶし会ウェブサイトを出題されたクイズの答え2つを記入してお送りください。正解者の中から抽選で10名の方に3,000円分の図書カードをお送りします。なお、当選者の発表は賞品の発送を持って代えさせていただきます。



### ■ 締切

令和5(2023)年  
4月3日(月)当日必着

### ■ 発表

正解は令和5(2023)年4月7日(金)にこぶし会ウェブサイト上で発表します。

こぶし会

検索

# 工大祭と高専祭を開催

3年ぶりに  
対面で学園祭!

工大祭と高専祭は令和4(2022)年10月14日から16日にかけて行われ、対面での学園祭は3年ぶりであって、たくさんの笑顔と歓声が会場に響きました。

## 国際高専ホームカミングデー

### 久しぶりの再会に笑顔、白山麓キャンパスで初開催

高専祭に併せて国際高専では10月15日、卒業生に学校を見学してもらう「ホームカミングデー」を開催し、白山麓キャンパスの校舎の素晴らしさに驚いていました。

オンラインによるホームカミングデーは実施していたものの、対面でのホームカミングデーは3年ぶりとなりました。

金沢高専時代の卒業生は、一様に校舎の美しさに魅入られたようで、機械科を卒業し、金沢工業大学の建築学科に編入した息子の豪さんを持つ山岸恭一さん(機械・昭和46年

卒)は「私たちが学んでいた校舎とは全く違うので驚いた。金沢高専では社会人としての振る舞いを教えてもらった」と笑顔を見せました。

また、母親の和美さんと一緒に訪れた米谷朗子さん(電気・平成16年卒)は、校舎のほかに学生の寮も見られる見学会に参加し、「新しい校舎はとても美しくすばらしかったし、私たちの昔の校舎も良かったと懐かしくなった」と語りました。



自分たちのアルバムがあると、懐かしい思い出がよみがえってくるようでした



じっくりとアルバムを眺めている姿が見られました



クイズではマニアックな問題が相次ぎました



保護者の方々もお祭りを楽しんでいました

## 高専祭

### 学生、教職員、保護者が一堂に、参加型のイベントで盛り上がり

高専祭が10月15日、白山麓キャンパスで開催されました。今年は校名を国際高等専門学校に変更してから初めて国際理工学科1年生から5年生までがそろい、副題は『Change ~新たな時代へ~』としました。普段は別々のキャンパスに通う学生、教員、家族、卒業生が一堂に集まり、楽しい時間を過ごしました。

高専祭の前に、高専ロボコンの東海北陸地区大会の壮行会が行われ、出場する金沢キャンパ

ス4年生によるAチームと白山麓キャンパス1、2年生によるBチームのロボットが披露されました。

高専祭では最初に、アプリを使用した全員参加型のクイズ大会が行われ、国際高専にまつわる問題が50問出題され、学生たちは大画面に表示される得点ランキングに歓声を上げていました。カラオケ大会では大階段に設置された巨大スクリーンに映像を映し出して、学生・教職員が熱唱しました。

## 工大祭

### 地域の方々も参加! 盛り上がった3日間

工大祭は10月14日から3日間、扇が丘キャンパスで開かれ、一般の方々とともに盛り上がりました。

今年のテーマは「GATE」で、「Gift」「Achieve」「Together」「Express」の頭文字を取り、工大祭を通して企画や目標を達成する喜びを知ってもらい、来場者の

方々には思い出や感動を届けたいという願いが込められています。

ダンスやキャラクターショー、声優トークショーのほか、23号館パフォーミングスタジオでは科学実験体験が行われ、子どもたちが目を輝かせながら実験に取り組んでいました。

正面玄関ではこぶし会が提供した除菌用ウェットティッシュが来場者に配られました



3年分の思いを音楽で表現しました



中島さんに栄養ドリンクを手渡す古橋会長（左）

## 100km歩行/ 穴水スタートが 3年ぶりに復活 大学同窓会が 栄養ドリンクで応援



コロナ禍の影響から中止、短縮となっていた工大祭「100km歩行」が令和4（2022）年10月16日、3年ぶりに穴水スタートで開催され、大学同窓会の古橋孝実会長（大学・建築・平成8年卒）が参加学生を代表して体育部会委員長の中島淳さん（ロボティクス学科・4年次）に栄養ドリンク120本を贈りました。

100km歩行を運営する中島さんは「毎年の差し入れありがとうございます。3年ぶりの100kmフル開催にこぎつけることができほっとしています。後半もみんなで声

を掛け合いながら、全員で完歩できるよう頑張ります」と力強く話しました。

100km歩行には65人が参加し、午前5時15分には休憩地点「アクロス高松」に予定よりも早く先頭で國田航助さん（環境土木工学科・1年次）が到着しました。



学生たちは休憩地点で英気を養いました

## こぶし会の国際交流事業支援



修了証を受け取った学生たち



報告会には、こぶし会の松田真一会長と中野忠史副会長も出席し、学生たちは流ちょうな英語で体験などを発表しました

## 異文化との交流が大切、学生が英語で帰国報告

こぶし会では、金沢工大と国際高専が実施する国際交流プログラムを支援しています。第7回イギリス英語研修の帰国報告会が令和4（2022）年10月28日、金沢工大のチャレンジラボで行われ、研修に参加した学生が現地で経験したことなどを英語で振り返りました。

帰国報告会は3年ぶりに実施され、当日は「文化体験」「授業・キャンパス」「課外活動」について3つのグループがジョークを交えながら感想を述べました。

文化体験では、建物についてイギリスはレンガ、日本は

木を素材に使用していることや、ドアの開き方も前者が内開き、後者が外開きになっていると違いを説明しました。授業やキャンパスでは、英語でコミュニケーションを取ることの難しさを痛感し、異文化に触れる大切さを語りました。課外活動では、ビッグベンやハリーポッターのロケ地を訪れるなど、充実した研修を過ごしました。

このように国際交流プログラムは、学生が文化を超えた人々とのつながりの大切さを知るきっかけとなっているようです。

## 夢考房チームが準優勝

### NHK 学生ロボコン 2022

NHK学生ロボコン2022~ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会が令和4(2022)年6月12日、東京都の大田区総合体育館で行われ、金沢工業大学の夢考房ロボットプロジェクトは、ロボット名「翡翠(ひすい)」で出場し、準優勝を果たしました。

今回のテーマは、「LAGORI~ラゴリ~」で、インドの人々が昔から慣れ親しんできた「ラゴリ」という屋外ゲームをモチーフにしました。

2チームが「シーカー」と「ヒッター」とに分かれ、シーカーがボールを投げて「ラゴリ」と呼ばれる石(ラゴリディスク)の塔を崩すことからゲームは始まります。

シーカーが再び石を積み上げる間、ヒッターはボールを相手チームに当てて積み上げを妨害します。試合は、攻守交代の2ラウンド制(各ラウンド90

秒)で、崩した石と積み直した石の合計得点が高いチームが勝利します。

準決勝で予選2位の東京大学を破り、決勝へ進出。決勝戦は予選3位の豊橋技術科学大学と対戦し、25点で同点だったものの、勝敗決定ルールに基づき敗退となり、準優勝とな

りました。

惜しくも優勝は逃しましたが、操作者による正確な操縦と安定した動作で、準優勝という結果をつかみました。決勝進出は2013年大会以来、入賞は第3位入賞の2020年大会以来となりました。



準優勝した夢考房チームの皆さん

## 新しい問題提起を発信

### 卒業生向けオウンドメディア「BackUp」

学校法人金沢工業大学の卒業生向けオウンドメディア(自社で保有するメディア)「BackUp」は、昭和56(1981)年から平成30(2018)年まで、冊子として卒業生に届けてきました。

インターネットの一般化、スマートフォンでのコンテンツ配信といった時代の流れに沿うように、令和元(2019)年から発信形態をウェブサイトに変更しました。

発信形態は変わりましたが、学園と卒業生との生涯勉学の理想を着実に実践するという役割を引き継ぎ、卒業生に新しい問題提起を行っています。

ウェブサイト「BackUp」では、教員による研究の最前線を紹介する「RESEARCHER'S INSIGHT」、注目の人物の活動・来歴に迫る「BackUp Interview」、工学の曙文庫の書物を研究者が読み解く「知とのダイアログ」、ライブラリーセンターのサブジェクト・ライブラリアンが本を推薦する「KIT Book Review」などの記事を発信しています。

ぜひご覧ください



URL : <https://kitnet.jp/backup/>

## Honda エコマイレージチャレンジで準優勝

### 夢考房エコランプロジェクト

夢考房エコランプロジェクトは令和4（2022）年10月1日から2日間、栃木県のツインリンクもてぎで開催された「本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2022 第41回全国大会」に出場し、準優勝しました。

夢考房エコランプロジェクトが出場したグループⅢ（大学・短大・高専・専門学校生クラス）は、一人乗りの自作自動車で1周約2.3kmのコースを平均時速25km/h以上で7周走行し、どれだけ少ない燃料で走行できるかを競う競技です。

練習走行では、前輪左タイヤがパンクするトラブルがありましたが、決勝では規定通り7周を完走しました。燃費1415.902km/Lを記録し、グループⅢに出場した47チーム中2位となりました。ただ、KITの最高記録1871km/L



準優勝を果たしたメンバーとマシン

には及びませんでした。

エコランプロジェクトが使用した車両「Welt（ヴェルト）」の出場は今回で5回目となり、エンジン内部パーツ（主にヘッド類、ピストン、コンロッド、クラン

ク、クラッチ、ドリブンギア）の見直しを行い、部品の改良、製作を行いました。また、新たな吸気管と排気管の設計・製作を実施し、今回の大会に臨みました。

## 4年ぶりに全国大会に出場

### 高専ロボコン

全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）の東海北陸地区大会が令和4（2022）年10月23日、三重県のAGF鈴鹿体育館で開催され、令和元（2019）年以來3年ぶりの出場となる国際高専は2チームが出場しました。結果、4年生3人で構成したAチー

ムが技術賞と全国大会への出場権、2年生3人と1年生5人のBチームが特別賞を獲得しました。全国大会出場は平成30（2018）年以來4年ぶりです。

今年のテーマは「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ！～」で、制限時間2分30秒の間にフィールドに設置され

たテーブルの上に乗せた紙飛行機の数を競います。国際高専は金沢キャンパスのAチームと白山麓キャンパスのBチームがそれぞれロボットを製作しました。両チームともにロボコン初挑戦でした。

地区大会は予選2ラウンドを競い、上位5チームが決勝トーナメントに進出します。Aチームは1勝1分、Bチームは2敗となり、Aチームが東京・国技館で開かれる全国大会に推薦されました。11月27日に開催された全国大会では特別賞を受賞しました。



写真左：大会に出場した国際高専のメンバー  
写真右：試合で熱戦を繰り広げるAチーム

# 寄付者銘板掲載の 複層化について

新年明けましてお目出とうございます。こぶし会の皆様方には輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ご高承のように、本学園は「工学アカデミア」の建設を目指して長年に亘って諸施策を鋭意推進して参りましたが、その一翼を担う「特別奨学事業」「夢考房プロジェクト事業」「教育研究の充実」等の発展に対して崇高なるご寄付を戴き、心から感謝申し上げます。

扱、近年、文部科学省は国公私立大学に対して寄付金募集の活性化及びその拡大を推奨しております。それを受けて、各大学においては自らの理念・目的に基づいた顕彰制度を設けており、例えば、寄付者に対して①ご芳名等を広報誌やホームページ等に掲載、②寄付者銘板に刻銘し掲示、③公開講座の無料受講、お礼状やお礼の品を返礼、④記念の盾、座席芳名プレートの贈呈や施設利用、⑤式典への招待、記念品・感謝状の贈呈、⑥称号の付与と称号に応じた特典、⑦施設利用費の軽減、⑧事業・施設等へのネーミングライツ権の付与、等があります。

このような動向の中で、旧帝大をはじめとする国立大学はもとより、多くの私立大学に於いても上記①～⑧の項目を其々明確にして寄付金募集活動を展開してきております。

一方、本学園は従来からご寄付戴いた個人、法人共に一定のルール（①、②、④、⑤等を中心に）に従い、学園としての感謝の念を表出させていただいております。

そこで、この度ご寄付に対する学園としての感謝の念を更に明確にするために、寄付者銘板掲載の複層化を行うことと致しました。その内容については「寄付者銘板掲載基準」に示す通りであります。尚、実施につい

ては令和5年4月1日以降となりますが、銘板掲載の基準に基づき分類し掲示することになりましたので、ご賛同戴きご協力賜りますようお願い申し上げます。

次に、前会報70号に引き続いて令和4年4月1日～令和4年9月30日までに戴いたご支援やご協力に感謝申し上げます。ご寄付を賜った方々のご芳名を五十音順に下記のように掲載させて頂きました。

## 寄付者名一覧

令和4年4月1日～令和4年9月30日（敬称略・五十音順）【大学同窓会】安藤新、石元裕一、泉屋利明、伊藤康紘、今越寛、大川博、大島正敬、岡本卓久、奥田敦司、奥村久美子、小田敬太、織田英也、尾上昌宏、加藤泰平、川向義朗、北市平太郎、北村和光、鴻巣研一、小島誠、小林勉、齊藤敏彦、齊藤盛雄、坂井義彦、坂上和久、坂本誠二、崎本優、櫻井圭志、佐々木寛治、佐藤晃、下林信博、杉本章造、杉本栄三郎、鈴木誠一、鈴木仁、多賀裕、工慎一郎、竹内真、武田香、橘守、谷口勝則、田村崇、津田政明、殿村和也、鳥井公博、内藤勇夫、長尾啓介、中嶋登、中村信一、西桶信基、西澤一正、西田浩一、野村耕二、芳賀啓一、橋場士朗、濱本佑典、林駿佑、肥前憲尚、飛田憲一、百万光生、平野正則、藤下明人、藤原和也、藤



## 石川 憲一

特別奨学事業寄付金募集委員長  
金沢工業大学名誉学長

原隆、前田正英、松浦正人、松田真一、松本正裕、三木直司、皆元孝則、宮口一郎、宮本謹慈、村田稔、本志郎、本川一郎、安原卓、山田昇、山中俊之、山本良二、脇坂美樹雄、渡辺悦史

【高専同窓会】生駒寛、泉屋利吉、小中博之、塩谷善智、田村公栄、刀祢利雄、宮下和則

【保二会】松井哲之、松本建一  
（全135名うち匿名46名）

【卒業生経営による企業】  
（株）KAZUM、（株）Gテクノ、（株）パワーユニオン、北研エンジニアリング（株）  
（全5企業うち匿名1企業）

最後になりましたが、依然として新型コロナウイルスの感染の終息は不透明であります。本学園は建学綱領の下に「工学アカデミア計画」の達成を目指し、私立理工系高等教育機関として将来有為の人材育成に邁進致して参りますので、こぶし会の皆様方には何卒宜しくご理解とお力添えをお願い申し上げます。

## 寄付者銘板掲載基準

	名称	法人・団体	個人
1	栄誉功労顕彰	30,000 万円以上	3,000 万円以上
2	特別功労顕彰	10,000 万円以上	1,000 万円以上
3	功労顕彰	5,000 万円以上	500 万円以上
4	特別功績顕彰	1,000 万円以上	100 万円以上
5	功績顕彰	100 万円以上	30 万円以上

<正会員>  山本 政幸 (大学・建築・S61)  平野 誠 (大学・経営・H3)  佃 尚憲 (大学・機械・H14)  佐藤 武彦 (大学・電気・H3)  泉 喜治 (大学・機械・S63)  北間 憲治 (保二会・附属高・S44)  北村 明 (保二会・電波高・S40)  平成15年2月 政氏 重美 (保二会・電波高・S38)  平成27年 砂崎 友治 (保二会・電波専・S37)  平成30年 田畑 正史 (保二会・電波高・S37)  6月 伊藤 哲夫 (大学・土木・S51)  8月 桜井 昭治 (大学・機械・S49)  8月 高桑 俊雄 (保二会・電波専・S38)  平成31年4月 佐々木 謙二 (大学・建築・S53)	令和元年	堀籠 雅人 (大学・機械・S54)  加藤 博久 (大学・土木・S53)  12月 太田 隆介 (高専・機械・S57)	押野 建二郎 (修士・建築学・S58)  清水 克彦 (大学・情報・H3)  4月 上田 優貴 (修士・電気電子・H30)  6月 村中 正雄 (保二会・電波高・S38)  7月 又田 稔 (大学・建築・S53)  9月 串田 暁 (保二会・電波高・S42)  10月 田嶋 光洋 (大学・建築・S53)  11月 小川 秀明 (大学・機械・S51)  12月 小沢 弘幸 (大学・電気・S54)  松井 正光 (大学・電気・S59)  星 伸和 (大学・電子・S53)	4月 竹川 好信 (大学・機械・S53)  5月 宮里 泰弘 (大学・電気・S54)  6月 村上 敏明 (大学・電気・S55)  沢田 利之 (大学・経営・S56)  朴木 正充 (大学・土木・S52)  7月 達 邦夫 (保二会・電波高・S37)  小林 泰広 (大学・機械・S48)  斉藤 一 (大学・土木・S51)  9月 小森谷 智 (大学・電子・H元)  圓尾 真一 (大学・機械・S57)  10月 永森 進 (大学・機械・S51)	
		令和2年	1月 井上 文男 (大学・土木・S52)  2月 木元 賢二 (保二会・附属高・S46)  井村 雄幸 (大学・機械・S47)	4月 浅儀 直人 (大学・情報・R1)  川田 聡之 (大学・環境システム・H14)  小室 義博 (大学・電気・S47)	
		令和3年	3月 重松 和憲 (大学・電気・H16)  4月 小鹿 明彦 (大学・電子・S52)  8月 松下 正 (大学・建築・S57)  8月 黒江 幹生 (大学・土木・S51)  12月 立花 幹男 (大学・情報・S50)	令和4年	
			2月 榊原 久 (大学・経営・S52)  戸部 成則 (大学・機械・S57)		
			3月 森田 和隆 (大学・土木・S55)		

### 令和4(2022)年春の褒章、秋の叙勲で 次の方が受章されました。

叙勲などの慶事を誌面でご紹介いたしますので、  
ごぶし会事務局まで情報提供をお願いいたします。

### 黄綬褒章(春)

中田 孝幸氏  
(有)中田建設 社長  
(大学・土木・昭和52年卒)

### 旭日単光章(秋)

羽田 好之氏  
(株)羽田 会長  
(高専・電気・昭和42年卒)  
(大学・電気・昭和44年卒)

## 10年の歴史に幕 [世界を変えた書物]展

[世界を変えた書物]展が、令和4(2022)年10月21日から11月5日まで、金沢21世紀美術館で開かれ、科学的発見、技術的発明に関わる原典初版(稀観書)140冊が、「知の壁」「知の森」といったテーマで斬新にレイアウトされ、2012(平成24)年から全国で開催されてきた同展のフィナーレを飾りました。同展は、金沢、名古屋、大阪、東京、福岡で開催し、約22万人が来場しました。



## 皆さんの声をお寄せください!

会報委員会では、「こんな特集が読みたい」など会員の皆様のご意見、ご要望を『会報こぶし』の制作に反映させていただきますので、事務局までお寄せください。また、連絡が取れなくなっていた卒業生の情報がわかりましたらお知らせください。

※インフォメーションカード、ホームページのお問い合わせ、こぶし会のE-mail等でお寄せください。

### 編集後記

◆今回、誌上キャンパスツアーと銘打って、扇が丘キャンパスの今と昔を振り返ってみました。取材に同行してキャンパス内を巡りましたが、私が金沢高専に通っていたころにはなかった施設がたくさんできていました。学園創設から60年以上が経ち、昔の面影は少しずつ失われていくでしょう。しかし、母校が発展していくのを目の当たりにするのはうれしいことだと実感した次第です。

◆今年は3年ぶりに高専祭、工大祭が対面で実施されました。こぶし会でも、サマーセッションin白山麓、全国一斉ボウリング大会、高専ホームカミングデーなどを開催し、コロナ前の日常が戻りつつあります。来年は大学ホームカミングデーやこぶし祭を行えばいいなと思っています。そして、会員の皆さんの顔を見られる日を楽しみにしながら、新しい年のスタートを切ります。／記T.N

第26回

# 全国一斉ボウリング大会 BOWLING

3年ぶりに開催、153人が熱投

第26回全国一斉ボウリング大会が令和4(2022)年10月21日から11月20日にかけて全国9支部10会場で開催され、会員86人、家族67人が熱投を繰り広げました。3年ぶりの開催となった大会では、ボウリングは久々という参加者も多く、「調子が出ないなあ」と苦笑いする姿も見られました。会員の部では、佐藤さん(岐阜会場)が389点、家族の部では西崎さおりさん(富山会場)が406点で、それぞれ優勝の栄冠を手に入れました。



## 成績

### 佐藤直樹さんが優勝!

(大学・建築・平成3年卒)

#### 会員の部

- 👑 優勝 389点 岐阜会場 佐藤直樹さん (大学・建築・平成3年卒)
- 👑 2位 362点 富山会場 藤畑総司さん (大学・電気・昭和49年卒)
- 👑 3位 347点 能登会場 谷内清秀さん (大学・経営・昭和51年卒)
- 4位 343点 富山会場 西崎 晃さん (大学・電子・昭和54年卒)
- 5位 333点 金沢会場 西本真也さん (高専・電気・平成8年卒)

#### 家族の部

- 👑 優勝 406点 富山会場 西崎さおりさん
- 👑 2位 391点 能登会場 前田令子さん
- 👑 3位 390点 富山会場 西田裕美さん

※スコアは2ゲームのトータルです。



## 石川支部が発足へ 初の支部総会を開催

石川支部の支部総会が令和5(2023)年2月19日、金沢工業大学5号館で開催されます。こぶし会最大となる約2万人の支部が誕生します。当日は役員選出、来年度の事業計画を審議する予定です。会員の皆さんには、ぜひご出席くださいますようお願いいたします。お申し込みはこぶし会ウェブサイトまで。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては開催を見送る可能性があります。



### 団体・業者からのDMや 電話にご注意ください!

こぶし会では、団体・業者への名簿の提供および寄付や商売の斡旋は一切行っていません。もしも、自宅や勤務先などに業者等からダイレクトメール(DM)や電話があった場合には、金沢工業大学同窓会とは無関係ですのでご注意ください。

### 【金沢工業大学を卒業の皆様へ】各種証明書発行について

令和4(2022)年1月より、卒業証明書、修了証明書などの証明書がコンビニエンスストアでも受け取れるようになりました。コンビニエンスストアでお受け取りになれる証明書、発行手数料、卒業年度などにつきましては条件がございます。詳細につきましては、本学ウェブサイトでご確認ください。

#### ●卒業生の方への各種証明書発行に関するご案内

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shoumei/>



## こぶし会を日本一の同窓会組織に! 同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7(1995)年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**78,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている方には、払込取扱票を同封しています。

#### ■会費の払込方法 郵便払込(3年分一括払い3,000円)

お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードにご記入の上ご返送ください。

#### 対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 令和5(2023)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和5(2023)年3月末日で40歳以上の会員

\*会費の納入は80歳までとさせていただきます。

\*令和元(2019)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和4(2022)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。

こぶし会  
事務局

〒921-8501 石川県野々市市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内  
TEL.076-294-6375(直) FAX.076-294-0886  
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.<https://www.kobushi.jp>



QRコードで  
ウェブサイト  
をチェック!